

インド アッサム地方の竹利用



今日の内容

1. 自己紹介
2. なぜインドの竹を調べるのか？
3. 日本の竹利用のこれまでと現状
4. 日本とインドの竹利用は似ている？
5. これからの竹利用を考える

1:自己紹介

京都大学大学院 地球環境学舎 博士課程在籍 DC1
景観生態保全研究室

修士課程在籍中→休学、JICA青年海外協力隊（ケニア、森林経営）
帰国後→修士復学&ダブルスクール、日本語教師養成学校
修士論文：ケニアの自生竹の地上部現存量アロメトリー
日本語教師非常勤講師&竹サロン、竹研究



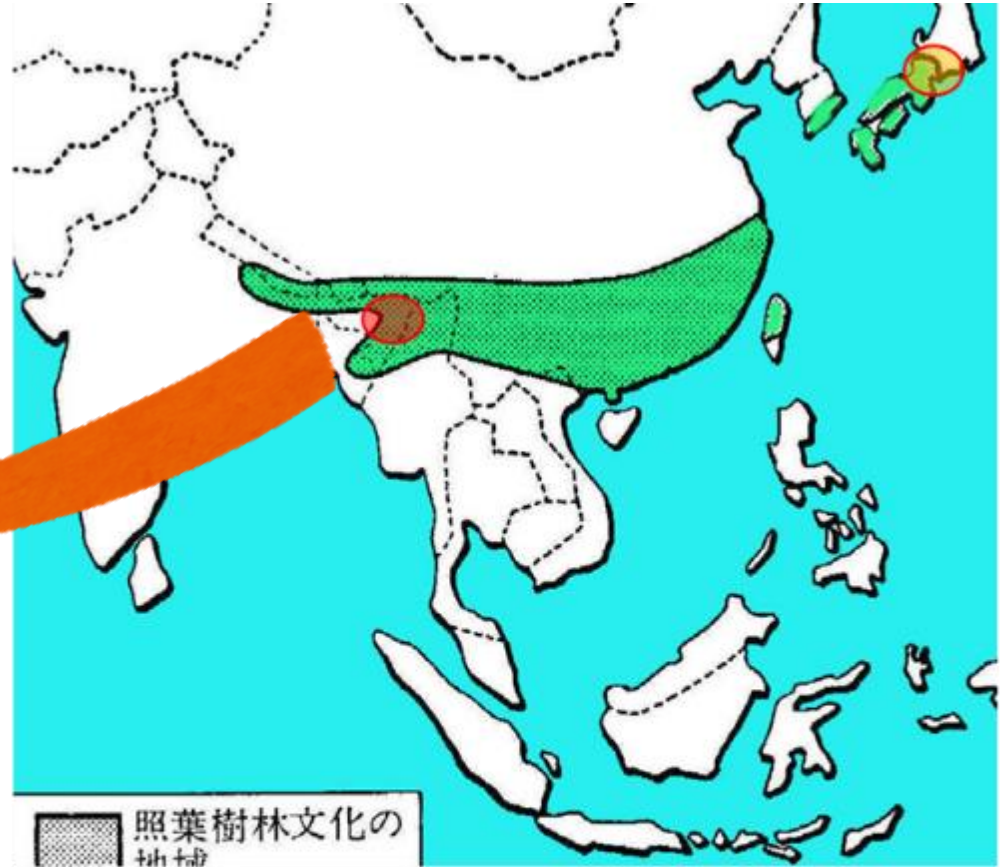
2:なぜインドの竹を調べるのか？

照葉樹林文化圏

1970年代以降の文化人類学者
(中尾、佐々木)の学説



https://en.wikipedia.org/wiki/Category:Seven_Sister_States



照葉樹林文化圏

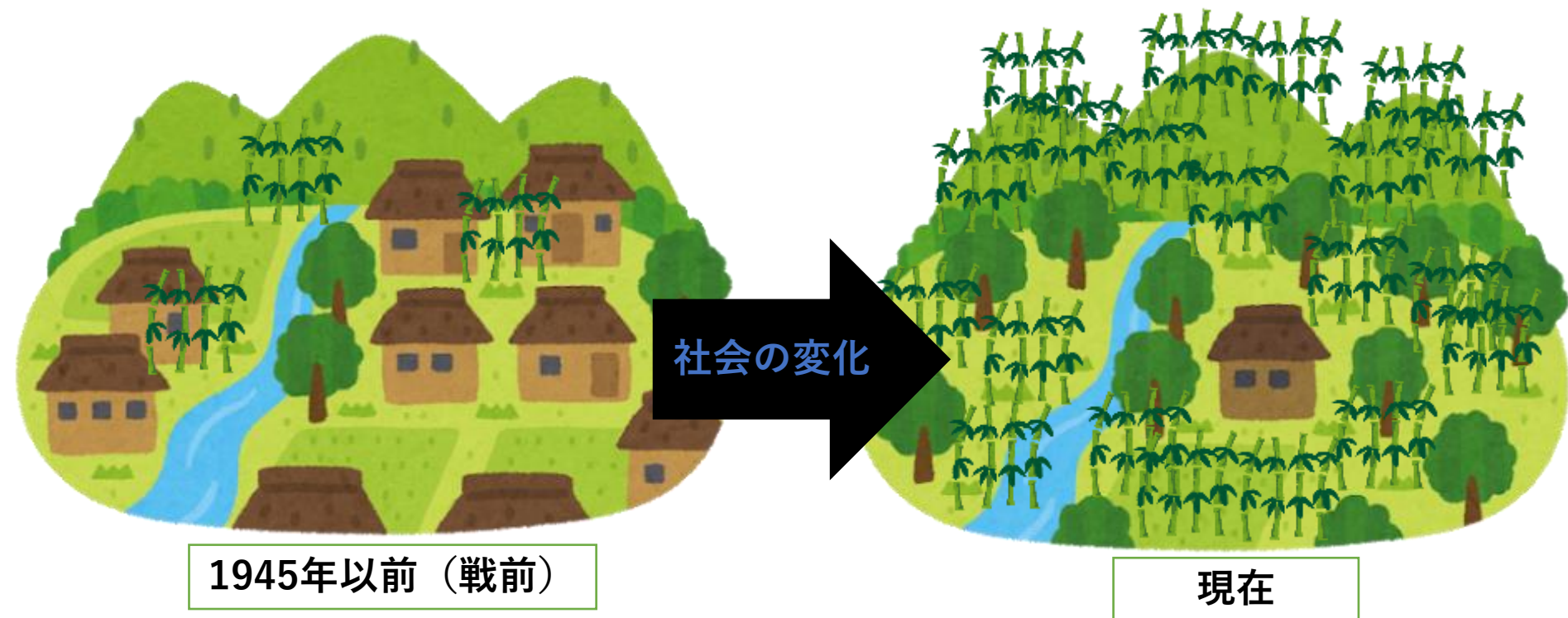
(佐々木高明, 照葉樹林文化の道—ブータン・雲南から日本へ (NHKブックス (422)) 単行本—1982/9)

北東インドと西日本の文化は近しい可能性がある。

竹と人の関わりは似ているのか？

竹と人の関わり方はどのように
変化してきたのか？

3:日本の竹利用のこれまでと現状



農山村地域において、かつて自給用の日用品や筍の確保のために利活用及び管理されていた竹林が、**社会の変化**によって**管理放棄**されるようになってきたこと。その結果、**放置竹林が造林地へ侵入したことによる植栽木の被害**が報告されている（井鷲,鳥居 1998）。

周辺地域へ竹が侵入したり、地盤が脆弱化したりする傾向がみられ、**竹林が地域にとって害のある植物であるとの捉え方が強まってきた**(鳥居 2010)。



12万年前の遺跡



野山にまじりて竹を取りつつ、
よろづのことに使ひけり。

今は昔、竹取の翁といふ者
ありけり。

箕売り、箕なおし

<http://taketori.koiyk.com/take-sono2.htm>



**農具、漁具
生活用品**

賤民、貧しい人

<https://www.taketora.co.jp/diary/2019/04/post-3822.html>



戦後の竹と人の関わり

1945年9月5日
アサヒグラフ

らか居 住づ先は興復
—型画部・型省生厚—

戦後の住居建設のために建築資材が必要となる → 割竹の需要が高まる

茶紅東日

掃一を疾菌
うし
磨齒ガラク

戦後の住居建設のために建築資材が必要となる → 割竹の需要が高まる

戦後復興期：米国基金を活用してインフラ整備、都市建設
都市に労働力が必要→地方、農村から都市部へ人口流入
農村人口減少→**自給自足用竹林衰退**

割竹の需要増加、竹材需要増

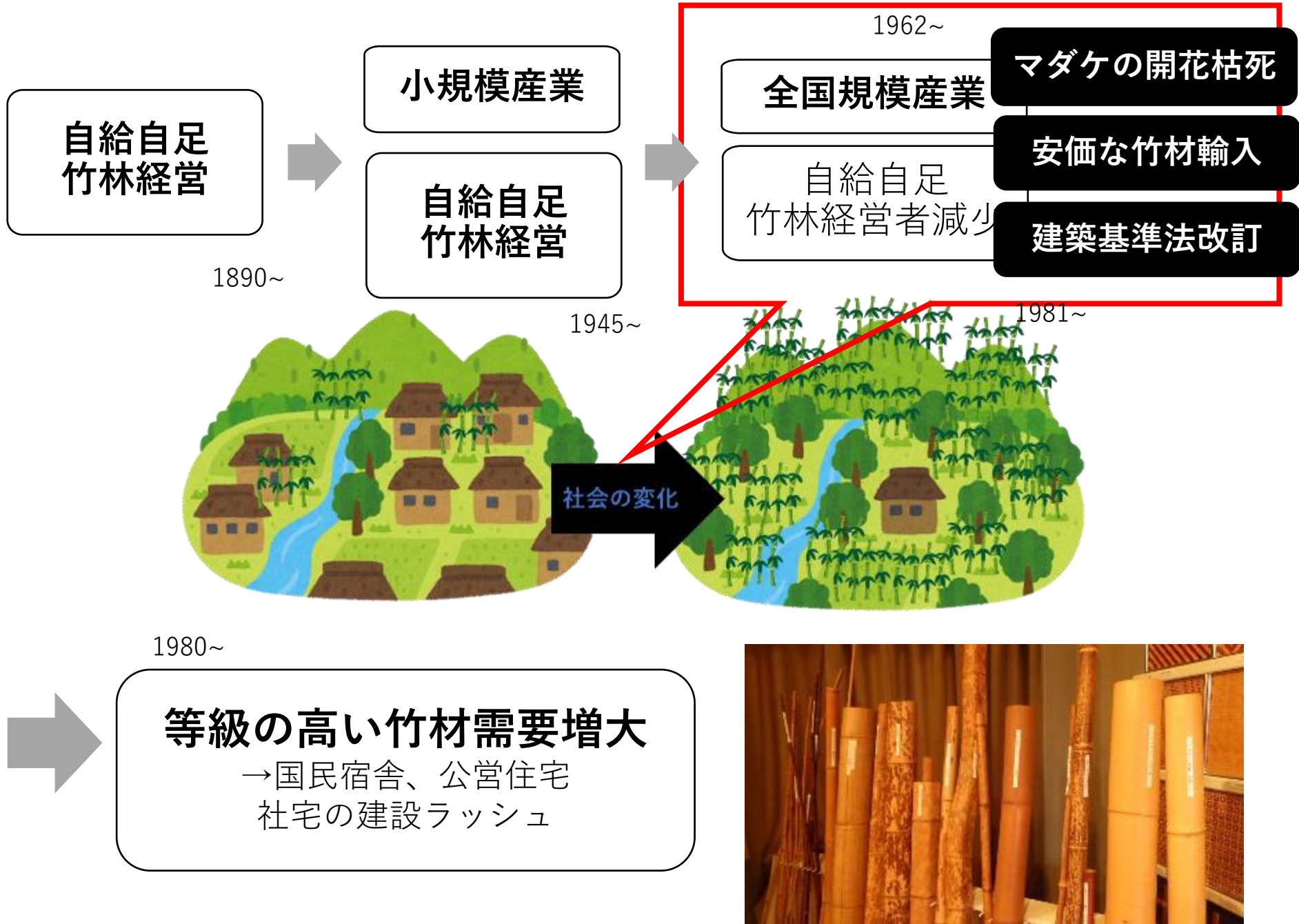
- 1950年代に竹材屋は増加（大分での聞き取り調査より）
- この年代に創業を開始した竹材屋は割竹の出荷が主

1960年全日本竹産業連合会設立 小規模竹産業から全国規模の竹産業へ

- 1962年から マダケの開花現象が各地で見られた→開花枯死
- 1964年から 竹材の輸入開始
(1980年頃までは台湾からの割竹が輸入の8割)
- 1981年 建築基準法改訂に伴って壁面資材としての割竹利用激減

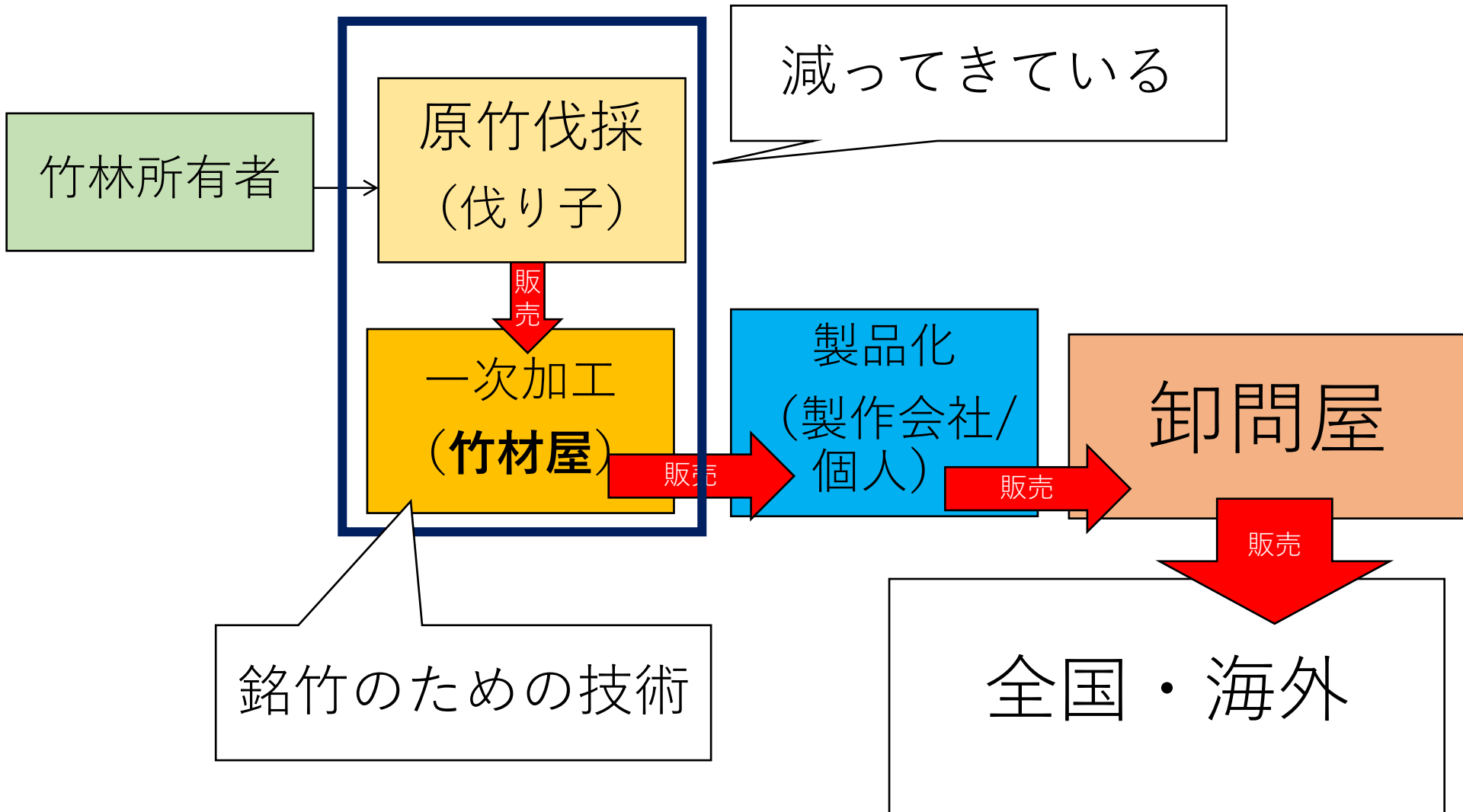
1981年以降は輸入竹も中国からの晒し竹や竹製品に代わっていく。
安価であることから需要は増大。

一方、国内の竹材屋は割竹の需要が減少したことによって、衰退。





伝統的竹産業体系 (大分)



4: 日本とインドの竹利用は似ている？

YouTube JP

assam bihu



主食 = 米
野菜、魚 (淡水)

農具、漁具

AC MULTIMEDIA

▶ | 🔊 1:56 / 4:14





sepa



khloi



zakoi



polo



Duli



Duli



khora
i

Khorahi(small)

Dukli(big)

saloni

Dola(no holes)

saloni

Kulla





dhari



bisoni



jhadu





xal



jaapi



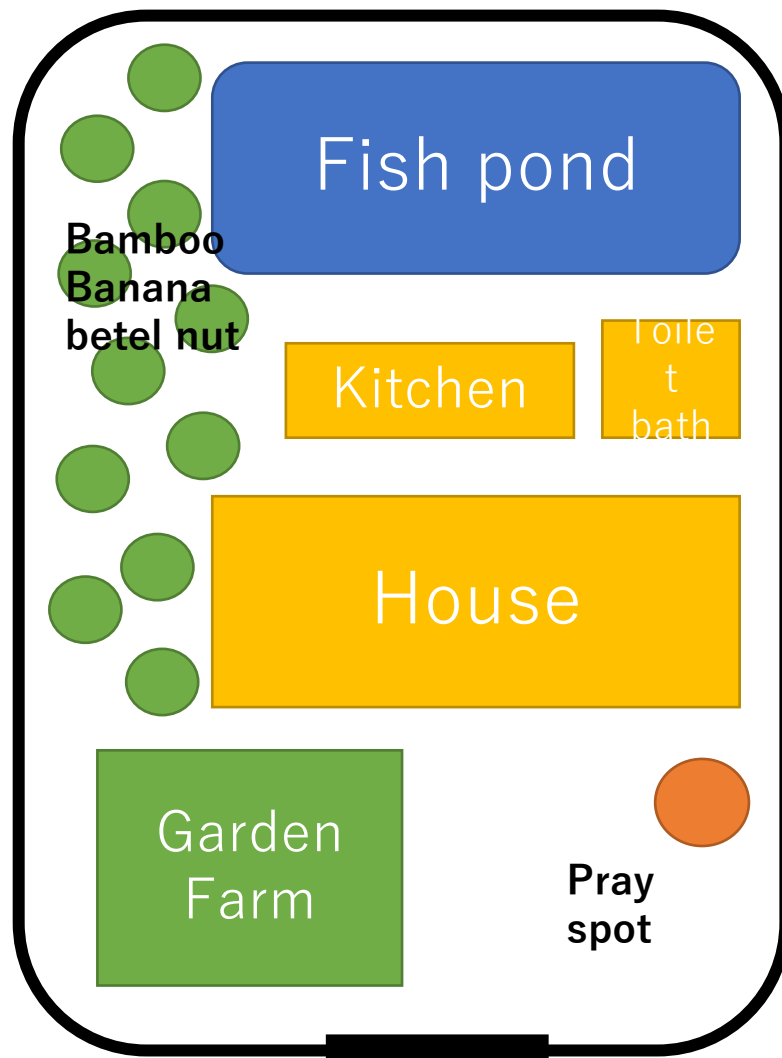


Khorisa
(Bamboo shoot pickle)

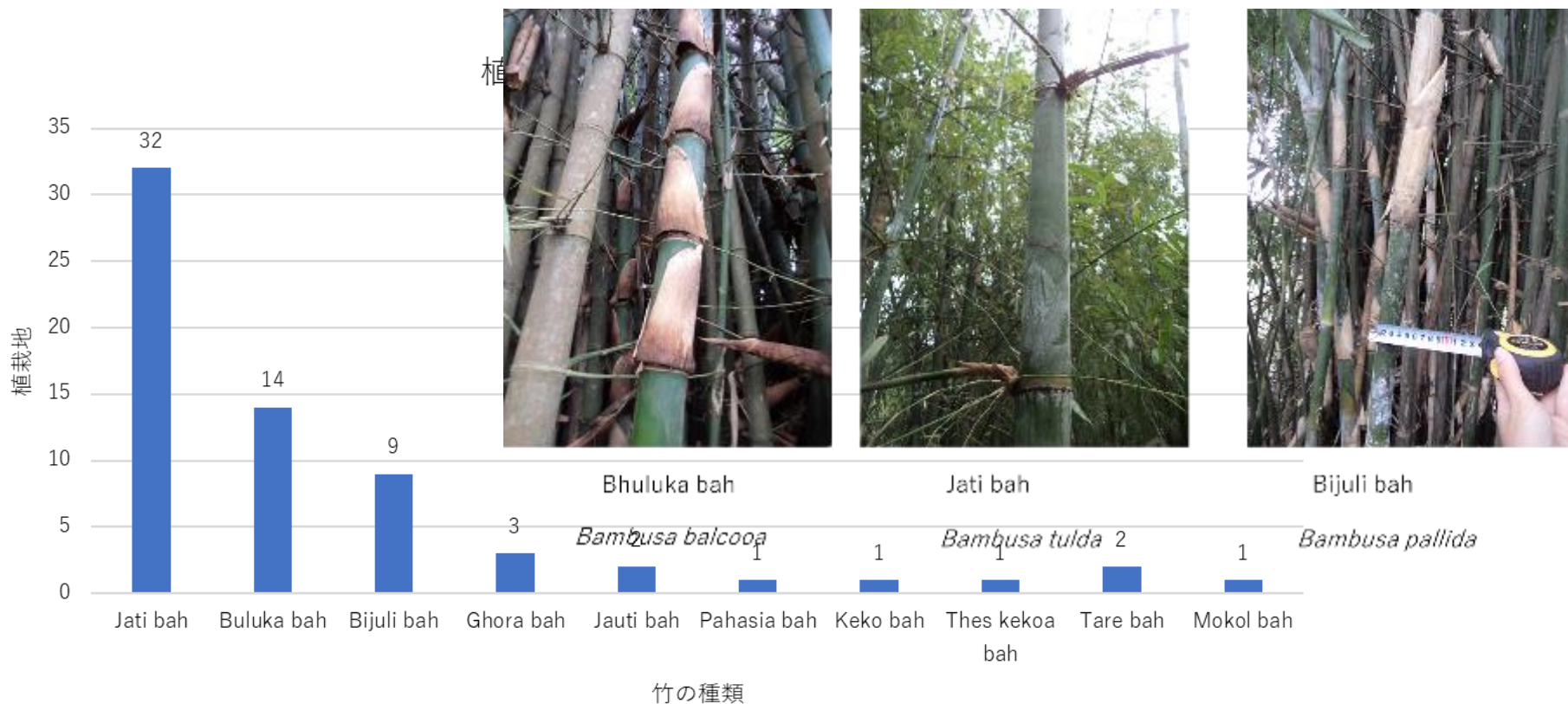
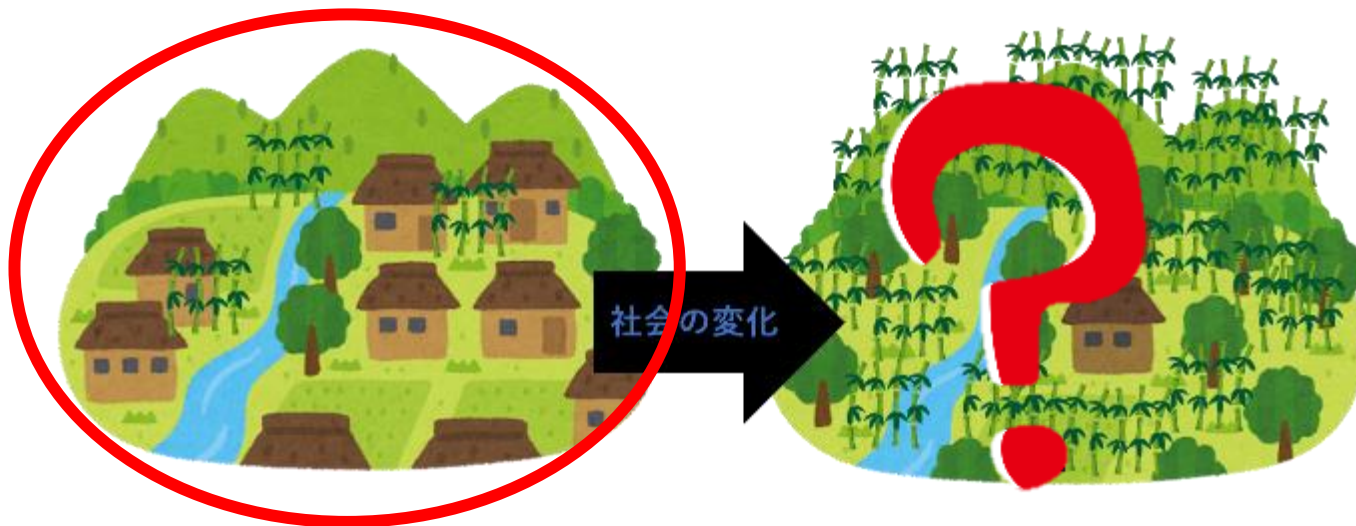


現金収入に依存しない生活
学費や病院などに困る = いわゆる貧困層

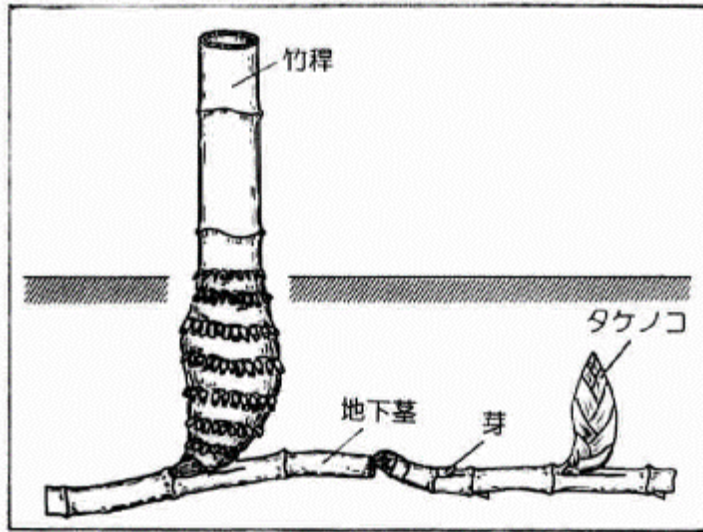
Life of people in Assam



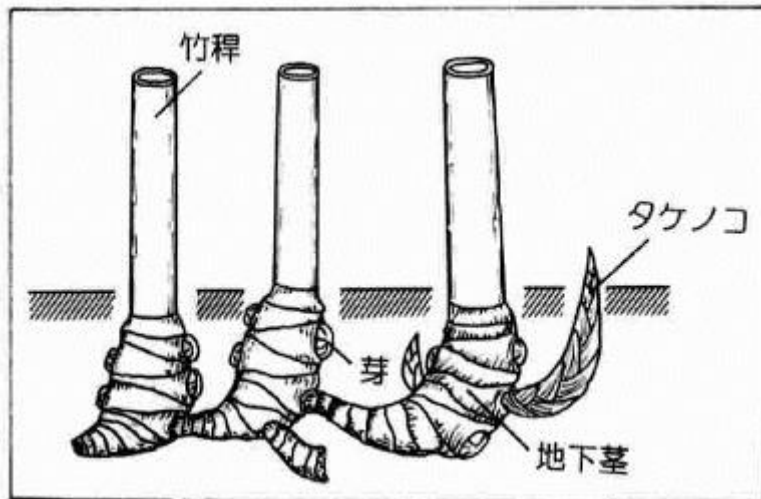




京都 モウソウチク放置林

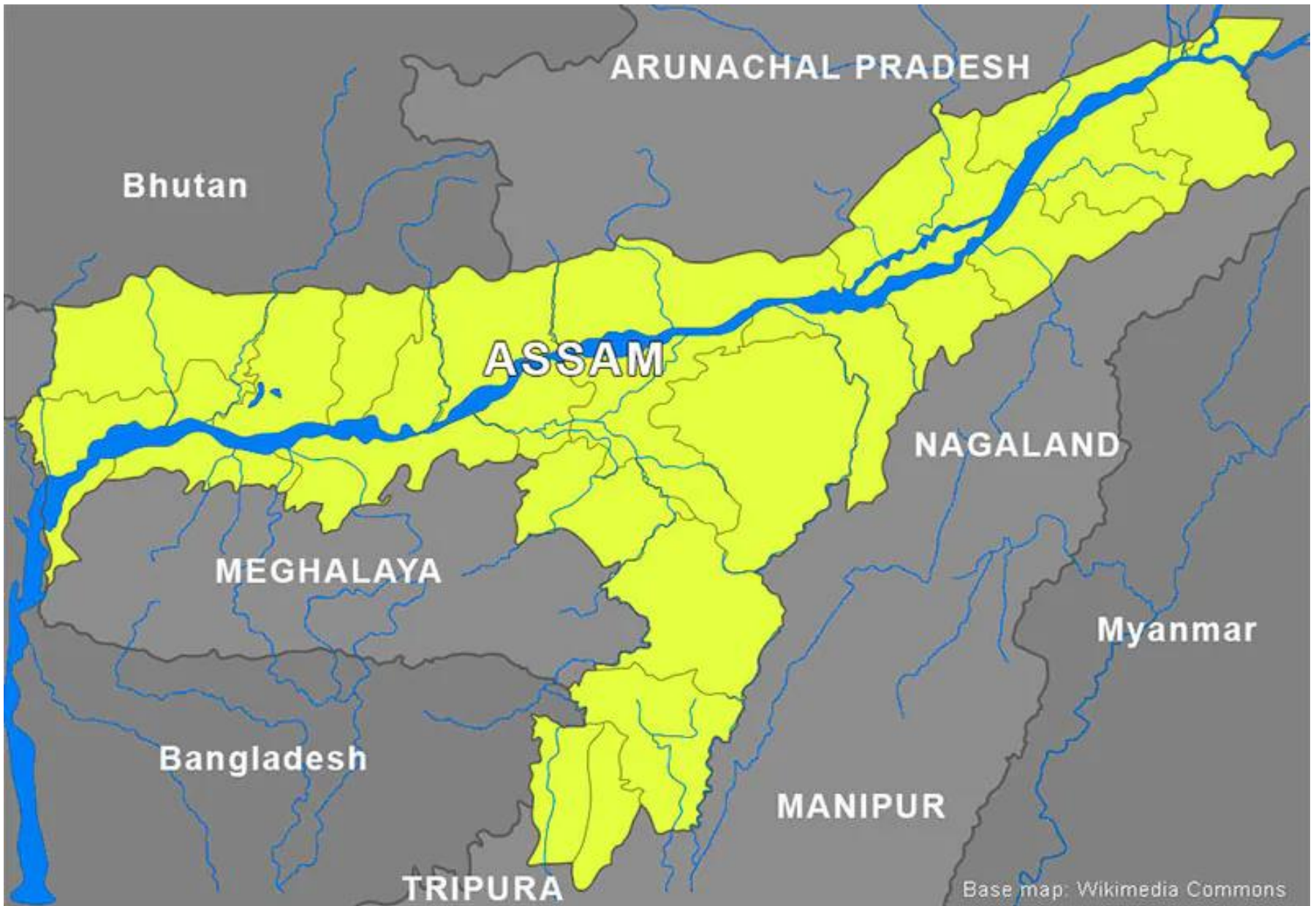


アッサム バンブーサ属









<https://www.news18.com/news/immersive/assam-floods.html>





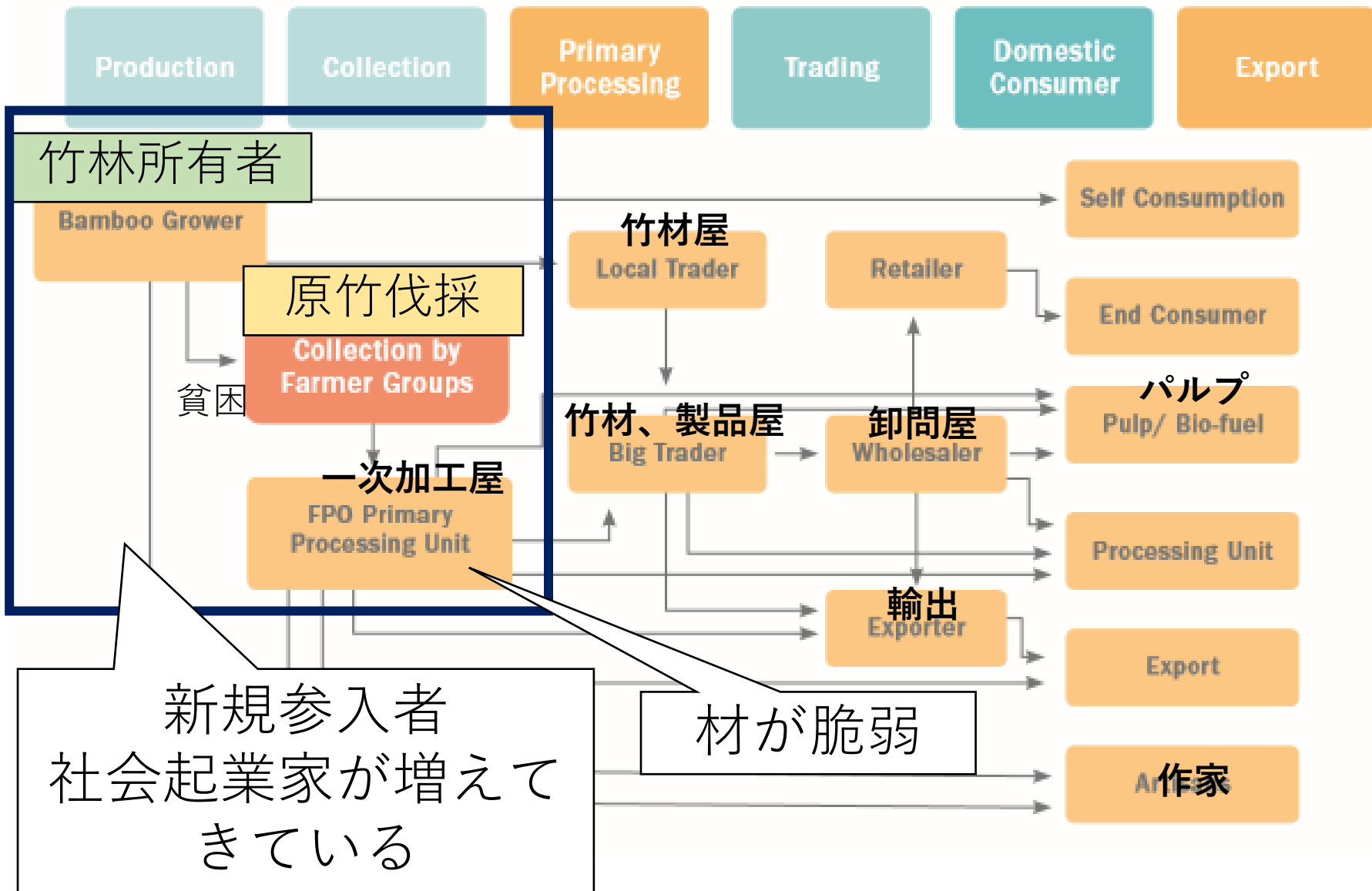


An Assam-Based Entrepreneur Has Invented Leak-Proof, Eco- Friendly Bamboo Bottles



7.1 Raw Bamboo Proposed Updated Value Chain

徐々にではなくフレームワークから竹産業が出来てきている。




5:これからの竹利用を考える

竹林が荒れている
銘竹が得られない

竹林周辺住民は貧困層
比較的収入が少ない


前提



日本において
銘竹の需要が高まっている


アッサム、日本において
竹はかつてから住民にとっ
て馴染みのある資源

世界的に 脱プラ等
持続可能な竹資源への期待



竹林を管理して
銘竹生産するべき

竹林周辺住民主体の
竹材屋の運営

A photograph of a bamboo processing workshop. The scene is filled with bamboo stalks, some standing vertically and others bundled. In the background, a person is visible on a raised platform, working with bamboo. The workshop has a green metal frame and skylights. A central text overlay reads "ありがとうございました！" (Thank you very much!).

ありがとうございました！